

-地域と大学を結ぶ- りえぞん No. 7

編集発行：武庫川女子大学 教育研究社会連携推進室

充実する本学の地域連携活動

本学では、社会連携の活動が次第に数を増し、また継続的な活動も行われている。その中の際立った活動概要を以下に紹介する。

[対象期間：2019.9～2020.3]

【 共通教育科目「チームで学ぶ課題解決」 】

（前期）学生たちが企業の広報戦略に挑戦

前期（谷口節子非常勤講師）は、学生が企業の広報戦略に挑んだ。課題は、近鉄グループの総合物流会社、近畿配送サービス㈱（大阪府八尾市）からの「わが社に興味を持ってもらう広報のあり方とは。」

学生たちは一つのチームになり、同社の「強み」や課題の把握に社員からのヒアリングを実施。5月には、八尾市の同社本社と館内物流を行うあべのハルカスを訪問。また、同業他社の広告展開の研究や、広報や広告についてのアンケート調査を実施し、課題解決に取り組み、様々な解決方法を提案した。

（後期）学生の主体性を高めるには

後期は、ナカバヤシ㈱からの課題「大学が抱える課題に対して当社は何かができるか。」について10人の学生が挑んだ。

同社社員からのヒアリングや学内外でのアンケートなどを行い、全国の大学の課題であり社会からの要請でもある「学生の主体性を高める」を設定し、「学生自らが目標を定め、達成のための努力の継続を可能とするためには」と定義付け、同社商品の応用に向けた提案を検討した。

1月27日の成果発表では、①「学生生活における目標設定を行い活動する」、②「学生による地域住民への授業を行う」、③「PBL型授業などの学びの継続性を高める」の3つの提案を行った。



（前期）本学 HP より



（後期）本学 HP より

【 日本語日本文学科 】

学生による日本語教育実習

毎年夏季休暇中に、日本語教員資格取得を目指す学生が「日本語教育インターンシップ」で、国内日本語学校と海外協定校で日本語教育実習を実施。

今年度は8月上旬から1か月間、大阪、神戸の日本語学校3校で3～5日間、合計12名（大日3年生）、韓国大田広域市の韓南大学で8月19日から約1週間15名（大日3年生13名、4年生2名）が実習に臨んだ（引率：上田和子教授、濱野綾香助手）。

特に海外実習では、自身が外国に身を置き、日本語を学ぶ同世代の学生との異文化体験と現地学生との深い交流が特徴になる。

（日文学科 HP <http://jc11.mukogawa-u.ac.jp/>）



本学 HP より

22か国・22人の外交官・公務員と日本語による多文化交流活動

学科主催「日本語交流会・外交官公務員を迎えて」が1月11日、文学2号館51教室にて開催された。

ゲストは、外務省「外交官・公務員日本語研修」の研修生。日本語日本文学科と協定を結ぶ国際交流基金の関西国際センター（大阪府泉南郡田尻町）で日本語研修を受けている。

多文化交流活動は今年で5年目になり、「異文化間コミュニケーション」（上田和子教授）「日本語教材研究Ⅰ」（野畑理佳准教授）を履修する学生を中心に、本学留学生数名も加わった約30人の学生が参加した。



本学 HP より

漢字を楽しく学ぼう。漢字キャラクターの教育コンテンツを共同開発

日本語日本文学科 設楽馨ゼミと、教材・文具の企画開発を手がける「㈱コトバノミカタ（宝塚市）」が小学生を対象として、部首をキャラクター化した漢字キャラクターの教育コンテンツを共同開発し、ワークショップを開催。

コンテンツの内容は、子ども達が漢字の形(字形)・音(読み方)・義(意味)をビジュアルとストーリーで理解できるよう部首をキャラクターにし、漢字への関心を促すもの。ワークショップには、設楽ゼミ生の日本語日本文学科 3 年の向井夢音さん、松本さくらさんがスタッフとして参加。参加した保護者からは漢字の成り立ちのストーリーを学び、子どもが漢字に興味をもったとの意見があった。



本学 HP より

【 教育学科 】

学生が「青少年のための科学の祭典」を実施

9 月 8・9 日に「バンドー神戸青少年科学館」で「青少年のための科学の祭典」が行われ、教育学科 金子健治ゼミの 3 回生 10 人が「発泡入浴材を作ろう」をテーマに出展した。2 日間で 5000 人以上の来場者があり、来場者は各ブースで科学を体験した。



本学 HP より

兵庫県主催の「ひょうごユース eco フォーラム」企画・運営等に参画

環境問題の解決に取り組む学生団体や NPO 法人などが日頃の活動内容を報告し、問題意識を共有する、「ひょうごユース eco フォーラム」が 12 月 21 日、

神戸市のデザイン・クリエイティブセンターで開催され、小学生から大人まで約 350 人が参加した。

当フォーラムは若者世代の環境保全・創造活動の活性化のために、県内の高校生と大学生計 13 人がスタッフとして企画・運営等に参画した。

本学から教育学科酒井ゼミ 3 年の山崎菜々美さん、古川萌絵さん、酒井里奈さんが参画。フォーラムの総司会や、冬の自然遊びを参加者が体験する「学生企画コーナー」の運営、また、以前鳴尾地区で栽培が盛んだった「鳴尾いちご」を地元の子供たちに伝えるゼミ活動の成果の発表を行った。



本学 HP より

【 健康・スポーツ科学科 】

穂原ゼミが開発に協力したコスメブランドのデビューイベントを開催

健康・スポーツ学科 穂原ゼミが開発に協力したコスメブランドの発表イベントが、10 月 19 日にららぽーと甲子園で行われた。

㈱伸栄商事との産学連携プロジェクト、スポーツに特化したコスメブランド「S.M.F.」(SPORTS MAKES FRIENDS)の第一弾となる化粧下地の「S.M.F スポーツ UV フェイスクリーム」が、全国発売された。

商品発売を記念し『武庫川女子大プレゼンツ “スポーツ女子がシンデレラチェンジ”』と題したイベントを企画・開催。スポーツクリームを使用したメイクチェンジショーや、ららぽーと甲子園内のファッションブランド店とコラボレーションをした「お出かけメイク&ファッションショー」を行い、学生による秋服コーディネート提案を行った。



本学 HP より

**安田ゼミ、コンディショニング研究部のコラボ企画
「姿勢が変われば全てが変わる！」をららぽーと甲子園で開催**

健康・スポーツ学科 安田ゼミの学生と、コンディショニング研究部（学友会活動）の部員によるコラボ企画「姿勢が変われば全てが変わる！」を、1月26日、ららぽーと甲子園で開催。健康・スポーツ学科2年次授業「健康・スポーツ実践研究(安田ゼミ)」での研究と、コンディショニング研究部の1年間の活動の集大成として、学生が企画し実施した。

安田ゼミでは昨年度から、アスリートに必要な各種トレーニングやスポーツコンディショニング方法の実践研究をしてきた。また、コンディショニング研究部では、定期的に勉強会を開催し、アスリート支援のために必要な知識・技術を学んできた。日頃の研究活動を通して学んだ知見を地域の方々に伝える必要性を感じた学生が声を挙げ、実現することができた。



本学 HP より

**「にしのみや学生ビジネスプランコンテスト 2019」
の決勝に、短大健康・スポーツ学科の学生3組が進出**

「にしのみや学生ビジネスプランコンテスト 2019」の決勝が11月27日、西宮神社会館で行われ、短大健康・スポーツ学科穂原ゼミの2年生3組が出場。

同コンテストは、西宮市内の大学生が大学での様々な研究結果に基づき、西宮市の地域性に合った地域産業や企業の活性化、地域発展や魅力の創造・再発見に寄与するビジネスアイデアを競う。決勝では、一次審査を通過したファイナリスト10組が企業の代表者の前でビジネスプランを披露した。



本学 HP より

【 生活環境学科 】

生活環境学科2年 向井奈緒さんのデコ・リメイク作品が努力賞を受賞

生活環境学科2年向井奈緒さんが、9月6日・7日開催の「2019 OSAKA 手づくりフェア」で開催された「デコリメイクチャレンジ展」で、努力賞を受賞。

同展は、関西の大学・短大・服飾専門学校の学生から既存の服飾品をベースにデコ・リメイクした作品を募集し、優れた作品を表彰する産学連携イベントで、10回目を迎えた。入賞作品は、特別展示された。



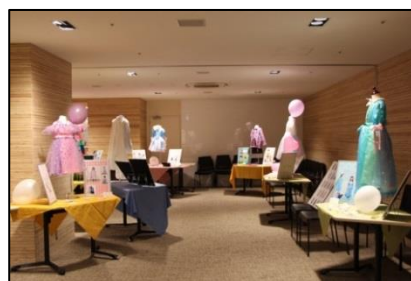
本学 HP より

「2019 キッズドリームウェア」開催！附属幼稚園の園児たちがデザインした洋服を学生が制作

大学・生活環境学科、短大・生活造形学科の学生が、附属幼稚園の園児たちが描いた絵を基に洋服を仕立てて披露する「2019 キッズドリームウェア」が講堂地下1階アゼリア食堂内 レセプションパークで開催された。

キッズドリームウェアは、2012年から附属幼稚園と生活環境学科、生活造形学科の連携事業の一環として取り組んで、今年で8年目。

今年は学生クリエイター36人が集まり、附属幼稚園の5歳児20人が描いたデザイン画から20着分の衣装を制作した。



本学 HP より

【 情報メディア学科 】

大森ゼミの学生が、第9回日中韓観光大臣会合 日中韓未来世代フォーラム「日中韓大学(院)生アイデア公募展」に日本代表として参加

8月31日、日本代表として参加した情報メディア学科大森ゼミの学生3人(奥田結菜さん、大野涼佳さん、安永かのんさん)が、提案書部門で奨励賞を受賞。

3か国から各10組、全部で30組の口頭発表が順次行われ、審査員は同時通訳を聞きながら審査をした。



本学 HP より

廣田神社で1月1日から、情報メディア学科和泉ゼミが考案した香り付みくじ「神様のつぶやき」の授与がスタート

情報メディア学科 和泉ゼミの3年生11人が考案した、香り付みくじ「神様のつぶやき」の授与が新年1月1日から西宮市 廣田神社で始まった。

和泉ゼミでは昨年度、植物セラピーあろあろ(伊丹市)と連携して武庫女独自のアロマを開発。今年度は更に西宮に貢献しようと、廣田神社の協力で進化系授与品として「神様のつぶやき」を制作。従来のおみくじと違い、「恋愛」「勝負」「美容」「金運」の4種類其々に効果的な香りが付けられ、「神様のつぶやき」のメッセージがつく。またツツジ型絵馬は、願いを書いて境内に飾ることができる。



本学 HP より



本学 HP より

大学が協力する地元歴史 TV 番組「ジモレキ TV (武庫川線の旅)」が12月30日に放映

本学が協力する地元歴史 TV 番組「ジモレキ TV (武庫川線の旅)」が、12月30日20:00より放映された。

今回は、情報メディア学科の丸山健夫教授とゼミ生の石原愛子さん(3年)が旅をし、武庫女の発祥の地、

武庫川高等女学校の跡地も訪問。



本学 HP より

【 建築学科・大学院建築学専攻 】

「2019 ひょうごまちなみガーデンショー in 明石」に出展

明石公園で9月21日～29日開催の「2019 ひょうごまちなみガーデンショー in 明石」に、本学の建築学科が出展。本イベントは、美しい県土づくりやひょうごふるさとづくりの実現に向け、県民の花と緑に関する意識向上、及び花と緑のまちづくりの一層の推進に、幅広い県民の参加と協働で実施する県民主体のイベント。

建築学科は、建物と緑が共生する作品を制作し、イベント会場である明石公園の正面入口に展示した



本学 HP より

本学で建築学を学ぶ学生が「まちたびにしのみや」の案内役を務めた

「まちたびにしのみや 2019 甲子園モダンイズム建築探訪」(観光協会主催)参加者が10月26日、甲子園会館(旧甲子園ホテル)を訪れた。

同建築探訪は、「まちたびにしのみや」が始まった平成24年(2012年)から人気のコースで、今回も定員30人に対し2倍以上の応募があった。

参加者は、大洲暉実さん(大学院建築学専攻修士課程2年)、中澤京さん・野中遥子さん(建築学科4年)のガイドで約90分間にわたり館内を一巡した。



本学 HP より

【 薬学部 】

本学薬学部と西宮市薬剤師会が、地域連携および研究教育連携に関する協定を締結

本学薬学部と西宮市薬剤師会は9月11日、地域連携及び研究教育連携に関する協定の調印式を行った。

調印式は、薬学部で行われ、一般社財団法人西宮市薬剤師会の鄭会長と篠塚学部長が協定書の調印と交換を行った。両者はこれまでに、市民向けの「お薬相談」やサプリメント・フレイル予防等の「健康講演会」を開催し、健康情報の提供等を継続し、地域連携に成果を挙げてきた。

調印式では、今後、地域住民に対する従来の事業の範囲の拡大とセルフメディケーション推進事業の促進、さらには薬の適正使用(ポリファーマシーや飲み残し等)の調査研究と地域住民への啓発活動に取り組みたいと述べた。

【 クラブ活動 】

硬式庭球部がデフテニス交流会を開催

硬式庭球部は、地域貢献・選手教育の一環として、また障がい者スポーツへの意識と理解を深めるために、12月7日本学テニスコートで「第21回兵庫県デフJrテニス教室」(主催:NP0 法人デフテニスジャパン/協力:本学)を開催。ハンディキャップを持つ地域の子もたちとテニスを通じて交流した。デフテニスとは聴覚障がい者のテニスだが、基本的に一般と同一ルールで、聴覚障がい者と健常者が一緒にできる数少ないスポーツ。

部員たちは、事前に聴覚障がいの概要や、テニス指導のポイントを、聴覚にハンディキャップを持つコーチから教わり、当日は、参加した子どもたちとコートで対面し、準備してきた指文字と手話で挨拶。テニスと一緒に行動中で笑い声とハイタッチの音が響き、笑顔のあふれる90分で交流を深めた。

また、部員がイヤーマフを装着し、音を遮断した状態でテニスに挑戦し、デフテニスへの理解を深め、今後も継続して活動したいと話した。



本学 HP より

【 大学間連携科目 】

「新たな社会 Society5.0」で地域の医療はどう変わる？」をテーマとした最終発表会を実施

関西の5大学(藍野大学、大阪電気通信大学、大阪薬科大学、武庫川女子大学、森ノ宮医療大学)が連携する大学間連携事業の科目「多職種協働グループワーク実践論」(食物栄養学科 講師 長谷川裕紀)で8月、社会医療法人愛仁会と連携して5日間の集中講義を実施。今年度のテーマ「新たな社会“Society5.0”で地域の医療はどう変わる?—Aさん夫婦の事例を通して—」。大学や学科、学年の枠を超えて組んだ6グループが、其々の専門知識で未来の医療・介護・福祉の姿を想定・意見交換を行い8月27日に発表した。

多職種が連携し“Society5.0”実現の社会で活躍するために、専門分野や他分野も含む幅広い知識の修得、コミュニケーションを取りながらの相互協力、そして進化が続く医療に合わせた知識スキルの修得の重要性を認識したとの感想もあった。



本学 HP より

ららぽーと甲子園で大学間連携事業における学生考案の「笑いヨガ体験会」を開催

9月16日、ららぽーと甲子園での「笑顔で楽しく!健康に!笑いヨガ体験会」に多くの地域住民が参加した。

本イベントは、前期の大学間連携事業「地域活性化システム論」(担当:食物栄養学科 長谷川裕紀講師)で、受講生から提案された「笑いヨガ」イベントの企画を元に、学生有志メンバーにより開催された。この日は「笑いヨガマスタートレーナー」の大久保信克氏を講師に招き、呼吸法や笑い方のレクチャーを受け、子どもから高齢者まで手軽にできる「笑いヨガ」の体験を実施した。



本学 HP より

大学間連携科目の修了証書授与式開催

関西の5大学（前掲）が連携して、共通講座を開講する大学間連携事業の修了証書授与式が2月27日、武庫女ステーションキャンパス レクチャールームで行われた

本事業は、医療・福祉・工学等の幅広い領域に精通し、高度な知識や技能を持つ人材を育成しようと2008年に始まり、これまでの修了生数は延べ1,800人。グループワークやプレゼンテーション、施設見学など、様々な授業形態があり、企業・行政等の多彩な講師陣が授業を担当する。学生にとっては、他大学の学生と交流し、刺激を受ける機会でもある。



本学 HP より

【 地域・自治体・企業等との連携 】

本学の最寄駅・阪神電車「鳴尾」駅の駅名が「鳴尾・武庫川女子大前」駅に変更

本学の最寄駅の阪神電車「鳴尾」駅の駅名が10月1日、「鳴尾・武庫川女子大前」駅に変更された。

阪神電鉄と武庫川女子大学は2018年12月に包括連携協定を締結しており、「鳴尾・武庫川女子大前」への駅名変更は、今後、地域と共に一層の沿線の活性化を図り、地域と一体となったイメージを発信することになる。



本学 HP より

鳴尾・武庫川女子前駅の高架下に「武庫女ステーションキャンパス」が完成

最寄駅の鳴尾・武庫川女子前駅の高架下に建設していた「武庫女ステーションキャンパス」が完成し、9月23日、同キャンパス内で竣工式が行われ、10月7日にオープンした。

同キャンパス内には改札側から順に、飲食店「ラビ

ーズカフェ」、講義室「レクチャールーム」、金融機関「みなと銀行」、学生と企業が交流できるカフェ「知るカフェ」が入る。

高架下空間を活用した本格的大学施設は、日本初となる。



本学 HP より

岡山県と本学が、就職支援に関する協定を締結

岡山県と本学、本学短期大学部は1月10日付で、就職支援に関する協定を締結した。

協定は、岡山県と本学が連携・協力に努め、学生の就職活動を支援することにより岡山県へのUターンやIターン就職の促進を図ることが目的である。岡山県との締結により、本学と自治体との就職支援の協定締結は、計13件となった。

「第2回 武庫女スマイルフェス」を、ららぽーと甲子園で開催

ららぽーと甲子園で、2月15、16日「武庫女スマイルフェス」が開催された。本イベントは、昨年、大学間連携授業を契機に三井不動産の協力のもとに実現した。今回は15団体の学生たちが2日間にわたり、8か所のイベントブースを使って大人も子どもたちにも楽しめるように、自分たちで考えたイベントやワークショップの開催、企業とコラボした物品の販売や、プロジェクトのトークショーを行った。



本学 HP より



本学 HP より

ららぽーと甲子園で「MUKOJO ラジオ」の公開収録

FM OH! で毎週水曜午後 8 時から放送中の「武庫川女子大学ラジオ-MUKOJO ラジオ」の公開収録が 2 月 16 日、ららぽーと甲子園の「武庫女スマイルフェス」のイベントの一つとして行われた。「MUKOJO ラジオ」は 2017 年にスタート。ゲストは本学の卒業生や在学生、DJ の塩田えみさんも卒業生という“武庫女づくし”のオリジナル番組。いつもはスタジオでの収録だが、放送 150 回を超え、公開収録を企画した。



本学 HP より

「奈良文化講座」を開催

武庫川学院創立 80 周年、阪神なんば線開業 10 周年の記念事業で、「奈良文化講座」（主催：阪神電気鉄道株式会社、武庫川女子大学）が 10 月 27 日（日）、公江記念講堂で開催され、約 1,000 人が来場し、1、2 階席はほぼ満席となった。基調講演はマンガ家で大阪芸術大学教授の里中満智子氏、続いて文化講座「万葉のよそおい ミニファッションショー&トークショー」が行われ、最後の抽選会でも、会場は大いに盛り上がった。



本学 HP より



本学 HP より

第 3 回防災勉強会「防災情報の種類とその伝達」開催

標記の勉強会（主催：本学地域貢献推進委員会、後援：鳴尾連合自治会）が 12 月 7 日（土）に開催され、地元自治会を中心に近隣の住民等 55 名が参加した。第 1 部は、西宮市防災危機管理局防災総括室 島田章氏の「自治体が発信する防災情報と住民避難のタイミング」と関西大学 社会安全学部/社会安全研究科 近藤 誠司准教授の「いのちを守るためのポジティブ情報活用術～インクルーシブ防災の観点から～」の講演があった。第 2 部はパネルディスカッション。既設の防災スピーカーが屋内では聞こえない際の避難情報伝達や、

避難場所での避難者情報や安全確認、災害への備えや発生時の対策等、多岐にわたり意見交換を行った。

参加者からは「初動の大切さ、津波等は時間差を利用し、先ず逃げる意識の大切さが解った」「逃げることをあきらめない等、意義深いことを教えられた」「自己の地域がハザードマップでどのような地域か認識することが大切だと気付かされた」など、自助・共助を考える契機になったという感想があった。



本学 HP より

「第 4 回 研究成果の社会還元促進に関する発表会」が開催され、本学教員 7 組が研究成果を発表

教育研究社会連携推進室主催の「第 4 回 研究成果の社会還元促進に関する発表会」が 2 月 21 日午後、武庫女ステーションキャンパス レクチャールームで開催された。

今回は『生活』『産業』『文化・芸術』の 3 つのテーマについて、本学の教員 7 組が研究成果を発表し、銀行や企業、自治体の関係者を含め約 40 人が参加した。研究発表後、参加者と教員の間で活発な意見交換がされた。



本学 HP より

「第 4 回 地域連携協議会」が開催され、本学教員 12 人が地域連携活動を報告

教育研究社会連携推進室主催の「第 4 回 地域連携協議会」が 11 月 27 日午後、中央図書館 6 階 603 教室で開催された。地域連携協議会は、2016 年度より、地元自治体や自治会、地域の企業の方々に参加いただき、本学教員の地域活動の報告を行い、本学に対しての意見・要望を聞く場として開催している。今年度は 12 人の教員が、「地域連携に係わる活動」を

報告した。会場には、鳴尾連合自治会、近隣自治体や企業の関係者等約 40 人が参加した。

報告後、出席者からは「鳴尾いちごをもっと普及させて欲しい」「女子学生の柔軟な着眼点やアイデアには驚かされる。地域のためにも学生に様々な活動に関わって欲しい」など、多くの質問や要望が上がり、教員と活発なやりとりが行われた。

＜教員による報告は以下の通り＞

1. 赤穂市の町家再生とインバウンド集客
情報メディア学科 准教授 平井 拓己
2. 西宮市を舞台とした映像コンテンツ制作
日本語日本文学科 講師 工藤 彰
3. 学習支援ルームらび
教育学科 教授 神原 一之
4. 芦屋浜団地再生プロジェクト
生活環境学科 准教授 鎌田 誠史
5. 健康づくり及び食育活動に関する地域と大学の連携の新しい展開
食物栄養学科 教授 内藤 義彦
6. cosmecco と beaute による美と健康プロジェクト
情報メディア学科 准教授 井上 重信
7. 香り商材と AR を活用した地域活性 ― 神社をケースに―
情報メディア学科 講師 和泉 志穂
8. 浜甲子園団地における健康相談活動
健康生命薬科学科 教授 木下 健司
9. 地域連携から学ぶ ― 薬剤師のあるべき姿―
薬学科 教授 大川 恭子
10. 食育グループ Healthy+ (ヘルシープラス) の地域連携活動
国際健康開発研究所 所長 家森 幸男
11. 地域でのアート・ワークショップ活動
教育学科 教授 藤井 達矢
12. 浜甲カンタービレの活動
音楽学部 准教授 多田 秀子



本学 HP より

◆
連絡先：本館 5 階 社会連携推進課 中村・荻田
内線：6211、6213 / E-mail: shakai@mukogawa-u.ac.jp